

opusdei.org

教会における信徒の 役割：オカリス師へ のインタビュー

オプス・デイ属人区長はザ・ピラー（The Pillar、米カトリックニュースサイト）のインタビューにおいて信徒のアイデンティティとオプス・デイのカリスマについて語ります。

2024/11/20

今回のシノダリティについてのシノドスの主なテーマの一つは、教会における信徒の役割です。メッセージ、使命、靈性において信徒を中心とするオプス・デイは、これらの考察に何をもたらすことができますか？

教会における信徒の役割は、主に教会の構造内で役職を持つことではありません。全体から見れば、それら役職は自然と少数になります（いくらかは必要かもしれません）。シノドスでの対話において浮かび上がったこの考えは、オプス・デイのカリスマに大いに現れています。それは、各信徒一洗礼を受けた男女一人ひとりーに自己の使命の偉大さと美しさを自覚するようにさせます。初期のキリスト教徒と同様に、福音宣教の未来に対する責任は今日特に信徒、牧者たちと一致し彼らとの交わりのうちにある信徒にあります。

教会は主に神殿や構造ではなく、洗礼を通じてキリストに組み込まれた人々です。イエス・キリストを心と生活様式に宿す信徒は、近隣やコミュニティ、家族や友人、信者や未信者の間において、生き生きとした開かれた教会の現存となることでしょう。それはスポーツやエンターテインメントの世界、そして様々な職業、社会、文化、科学、政治、商業の分野においても同じです。

教皇フランシスコは使徒的勧告『喜びに喜べ』の中で、「わたしたちのすぐ近くで神の現存を映し出す『身近な』聖性」を見出すよう私たちに招き、信徒の中心性について語ります。オプス・デイはその始めからその方向に進もうとしてきました。それは、長所と短所を持つ普通の人々が、多くの人々に差し伸べられる神の手となり得ることを思い起こさせます。それは教会に一度も足を踏み

入れたことさえない人々に対しても
です。

このため私は、自分の環境において
真の使徒となる普通のキリスト者の
養成と靈的な世話に時間と心を割く
ことは鍵となるチャレンジである
と言いたいと思います。それは教会の
日々の活動における優先事項であ
り、神のおかげで、多くの小教区や
イニシアチブにおいて実現していま
す。

**なぜ、この信徒のアイデンティ
ティがオプス・デイにとって、
組織として靈的な道として、そ
れほど本質的なのですか？**

聖ホセマリア・エスクリバーが、神
が自分に求めているのはそれである
と理解したからです。つまり世界の
ただ中、家庭生活や職業生活をはじ
めとした日常的な現実における普遍
的な聖性への召命を説明し、示し、

見出し、思い起こさせるということです。創立者は、学生や社会人に同伴し、グループを形成し、彼らのために祈り、他の人々にも祈りを求めることにより、オプス・デイを前進させはじめました。彼はまた、マドリードで貧しい人々や病人を訪問する際に若者たちを巻き込み、そして黙想会や養成のクラスを組織しました。これらの活動は同じ精神で、多くの文化や国における、あらゆる階級や背景の人々の間で広まりました。

主と教会が私たちに求めているのは、このカリスマを大切にし、それを実りあるものにするということです。つまり、家庭や仕事の中で、社会の中での福音宣教です。そこでは常に、戦争、貧困、病気などの重大な課題が私たちの前に立ちはだかります。これらの現実の中で生きる普通の信者こそが、キリストが彼らの生活の中にどのように現存し、それが彼ら

とその周囲をどのように変えるよう促すかを証しすることができます。したがって、オプス・デイは組織として、家族を養い、厳しい仕事のスケジュールを持ち、経済的困難や転居などを経験する男女に適応した養成、同伴、具体的な靈性を提供します。人によっては、この精神を見出すことによって、自分の人生を通じてそれを広める召命を感じます。

• インタビュー全文 (英文)

pdf | から自動的に生成されるドキュメント <https://opusdei.org/ja-jp/article/ocariz-interview-shinto/> (2026/03/15)